

宮代町郷土資料館だより

えんがわ

第49号

指定文化財に多少庵句碑と俳額を指定！！

宮代町教育委員会では文化財を保護するため、宮代町文化財保護委員会で2年に渡り検討し、貴重なものを町の文化財として指定しています。

今回指定されたのは俳額と句碑で、いずれも百間の俳諧結社「多少庵」関係のものです。

多少庵は現在の宮代町や杉戸町、春日部市、幸手市、さいたま市岩槻区、羽生市、行田市、加須市の範囲と東京都江東区、葛飾区、墨田区の範囲の俳人により構成されていたようです。埼玉県北東部の有力な俳諧結社でした。

多少庵は当初、江戸深川（東京都江東区）にありました。ご存じの通り江戸深川は松尾芭蕉の庵があったこともあり、俳諧の聖地と言えます。そしてこの聖地深川に所在した多少庵に属した人々が埼玉県北東部の有力な農民層であったと推定されます。多少庵は天保8年（1837）に、多少庵4世島村鬼吉の屋敷のある百間に移されました。こうして、百間が埼玉県北東部の俳諧の中心地となりました。

今回指定されたのは有形文化財が3点で、1つ目は五社神社の句碑です。この句碑は文政3年（1820）に建てられたもので、この当時はまだ、多少庵は江戸深川にありました。多少庵の



多少庵句碑

中心人物であった百間東村の連溪庵（中野）南枝の句碑です。設立者として百間の徐松（島村鬼吉）、羽生の棠功、幸手の秀枝などの名前が見られます。句碑設立の補助として忍領連、騎西



多少庵俳額（五社神社）

領連、幸手領連、庄内領連、新方領連、百間領連と刻まれており、多少庵に属する俳人の広がりが見えます。

2つ目は五社神社の俳額です。文政9年(1826)に建てられたもので、この当時はまだ、多少庵は江戸深川にありました。多少庵の中心人物であった連溪庵徐松(島村鬼吉)の句を筆頭に多少庵に属する俳人の句が記されています。多少庵2世の江戸に住まいした日下部波静の句や後に多少庵3世を追号される故人の中野南枝の句も記されています。ちなみに島村鬼吉の子の梅年は埼玉県第6区区長を勤めた島村新右衛門で孫の島村繁は百間村長を勤めました。ひ孫が英文学者・教育者と知られる郷土の偉人島村盛助です。

3つ目は姫宮神社の俳額です。多少庵に属する姫宮の萩原常盤が願主となって、文化8年(1811)に作成しました。この当時はまだ、多少庵は江戸深川にありました。多少庵2世の日下部波静の句も含まれますが、最高位には地元百間出身の春暁亭(中野)南枝の句が記されています。

この俳額は自由に作った句と題詠紅葉とに分かれ、上下2段に合計83句が記されています。詠者の範囲は幸手市、宮代町、杉戸町、さいたま市岩槻区、春日部市、東京都墨田区、江東区に及びます。

今回の指定により、町指定文化財は、合計で31件となりました。



多少庵俳額（姫宮神社）

道仏遺跡の発掘調査

平成26年3月19日から5月13日にかけて道仏遺跡で発掘調査が行われました。場所は道仏土地区画整理組合事務所北東側です。道仏遺跡の発掘調査は平成9年度、平成20年度、平成22～23年度に続き、今回が4回目になります。これまでの調査で古墳時代前期終末から後期前半にかけて100棟を超える住居跡が発掘されています。

調査の結果、約510㎡に縄文時代早期後半（約7,000年前）の住居跡が1軒、屋外炉である炉穴が2基、土坑（貯蔵穴や落とし穴など）が2基、古墳時代後期（約1,500年前）の住居跡が6軒、土坑が5基、江戸時代の溝が1条、土坑が8基検出されました。なお、道仏遺跡で縄文時代の遺構が発掘されたのは初めてです。

遺物では縄文時代早期後半の条痕文土器がこれまでの調査で最も多く出土しました。この他、土師器と呼ばれる素焼きの土器や須恵器と呼ばれる斜面を利用した窯で焼いた硬質の陶器も出土しています。また、古代豪族のシンボルである三種の神器を模した和鏡形石製模造品（有孔円盤）、勾玉形石製模造品も発掘されています。この他、滑石製の白玉も出土しました。なお、勾玉形石製模造品は宮代町で初めての発見です。

この道仏遺跡では古墳時代の住居跡が120軒以上も検出されていますので、この地域でも中心的大規模な集落であったと推定されます。



第105住居跡、第1・2号炉穴（縄文時代早期）



第103住居跡（古墳時代後期）



第47号住居跡カマド土師器出土状況
（古墳時代後期）



石製模造品と白玉（古墳時代後期）

文化財調査報告書が刊行されました

文化財調査報告書第21集「須賀遺跡・姫宮神社遺跡・山崎南遺跡・伝承旗本服部氏屋敷跡遺跡・新山遺跡・西光院遺跡・星谷遺跡」と第22集「道仏北遺跡」が刊行されました。

第21集は小規模な発掘調査を纏めたものですが、山崎南遺跡や星谷遺跡からは縄文時代後期中葉の住居跡が発掘されています。また、姫宮神社遺跡からは埴輪が、伝承旗本服部氏屋敷跡遺跡からは戦国時代の井戸も発掘されました。

第22集の道仏北遺跡からは縄文時代早期後半から中期初頭の住居跡が18軒検出されました。集落全体が発掘されるのは非常に珍しいといえます。特に縄文時代前期末葉から中期初頭の住居跡は埼玉地区で初めて発見されました。

文化財報告書第21集は1,500円、第22集は3,000円で郷土資料館で頒布しています。



文化財調査報告書第21集(上)
文化財調査報告書第22集(下)

資料館日誌抄

- 3月15日 企画展江戸時代の須賀(5月11日まで)
- 3月19日 道仏遺跡発掘調査(5月13日まで)
- 3月29日 図書館郷土講演会への職員派遣(30名)
- 4月9日 中遺跡、東条原宿屋敷遺跡試掘調査
- 4月10日 西光院遺跡試掘調査
- 4月15日 みやしろ大学講演会への職員派遣(190名)
- 4月16日 デイサービス喜楽里見学(13名)
- 4月17日 デイサービスてまり見学(11名)
- 4月18日 みどりの森デイサービス見学(18名)
- 5月15日 姫宮神社遺跡試掘調査
- 5月17日 企画展「身のまわりの生活史9 モノを入れる～収納あれこれ～」(7月13日まで)
- 5月25日 川端2区歩け歩け職員派遣(33名)
- 5月27～28日 須賀中学校2年生職場体験学習(3名)
- 6月3～5日 百間中学校1年生職場体験学習(3名)
- 6月1日 ボーイスカウト宮代1団見学(35名)
- 6月5日 百間小学校2年生町めぐり見学(8名)
- 6月10日 みやしろ市民ガイド養成講座職員派遣(20名)
- 6月17日 第1回文化財保護委員会

資料館寄贈者名簿

(敬称略、順不同)

- 尾花重明(石碑)
- 藤林 泰(謄写板)
- 石橋孝夫(鬼瓦)
- 金子和生(盃、古文書)
- 大塚良子(古写真、史料)
- 斎藤 操(古写真、史料)

宮代町郷土資料館だより えんがわ 49号

発行日 平成26年6月20日

発行 宮代町郷土資料館

郵便番号 345-0817

住所 埼玉県南埼玉郡宮代町字西原289番地

電話番号 0480-34-8882

H P <http://www.town.miyashiro.saitama.jp>